
アサバのフムキ

コンパクト動力噴霧機

型 式 EP-160M3

取扱説明書

このたびは本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書には安全に使用していただくための要点を記してあります
ので、ご使用前に必ずよくお読みになり正しくご使用ください。
お読みになった後はいつでも読める場所に保管してください。
また、本書を汚損したり、紛失した場合はお買い上げの販売店にご注文い
ただき、大切に保管してください。

 株式会社 麻 場
〒381-8530 長野県長野市北長池1443-2
☎ 026 (244) 1317 (代)

680020320-2007.02

本書に記載した ⚠ の表示のある注意事項や機械に貼られた ⚠ の表示のあるラベルは、
人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり、必ずお守りください。
なお、⚠ の表示のあるラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店にご注
文いただき必ず所定の位置にお貼りください。

本書に記載した ⚠ の表示のある注意事項や機械に貼られた ⚠ ラベルでは、特に重要と
考えられる取り扱い上の注意事項について、次のように3段階に分けて表示しています。

- ⚠ 危険…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになります。
- ⚠ 警告…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があります。
- ⚠ 注意…その警告文に従わなかった場合、けがを負う恐れがあります。

また、製品の故障や損傷につながる使い方に関する注意事項について、本書では **重要** の
表示を用いています。

目 次

☆安全のために必ずお守りください.....	3
作業を始める前に.....	3
農薬、薬液の取り扱い.....	3
作業中.....	4
作業後と保管.....	4
☆警告ラベルとその取り扱い.....	5
☆サービスと保証について.....	6
☆動力噴霧機仕様.....	7
☆梱包部品一覧.....	7
☆各部の名称.....	8
☆運転方法.....	9
1 運転前の準備.....	9
1-1 エンジンオイルの注入、点検、補給	
1-2 燃料の補給	
1-3 ポンプへの注油	
1-4 各ホース類・コック・噴口の接続	
2 運転（始動）.....	11
2-1 エンジンの始動	
2-2 ポンプの吸水と暖気運転	
3 作業開始.....	12
3-1 調圧弁の設定	
3-2 作業	
4 運転中の注意.....	13
5 作業終了.....	14
5-1 エンジンの停止	
5-2 ポンプ・ホースの洗浄及び排水	
6 本機の手入れと保管.....	15
☆点検表.....	16
☆ポンプ性能表.....	17

☆ 安全のために必ずお守りください

作業を始める前に

危険

- 火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の事項を必ず守ってください。
 - ・燃料はエンジンを止めた状態で補給してください。
 - ・燃料補給時は火気に充分注意してください。
 - ・高温部に燃料がかからないように補給してください。
 - ・燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れないでください。
 - ・燃料がこぼれたらきれいに拭き取ってください。
 - ・燃料補給後、燃料タンクキャップは確実に閉めてください。

注意

意

- 次に該当する方は、この製品を使用しないでください。
 - ・酒気を帯びた者
 - ・過労、病気、薬物（農薬を含む）の影響その他の理由により正常な作業ができない者
 - ・妊娠中の者
 - ・満15歳未満の者
 - ・負傷中の者、生理中の女性等農薬による影響を受けやすい者
- 作業前に燃料漏れの無いこと、接続部のバックシンに脱落がないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常がないことを確認してください。
- 自動車等の荷台に乗せて運搬する時は本機が動かないように、確実にロープ等で固定してください。
- 燃料がこぼれたり本機が転倒する恐れがありますので、安定した水平な場所で運転してください。
- 余水ホースは、薬液タンクから飛び出さないように、吸水ホースに紐や針金でしっかり結び固定してください。運転中に調圧弁や、コックの操作で余水ホースが勢いよく飛び出し薬液をかぶる危険があります。
- エンジン運転中は、建物や施設から1m以上はなし、周囲に可燃物を近づけないでください。
- 安全性を損なうことがありますので、改造しないでください。
- この製品を他人に貸与または譲渡する場合は必ず取扱説明書を添付し、取扱説明書をよく読んでから使用するよう指導してください。

農薬、薬液の取り扱い

注意

意

- 本機は農薬散布用、もしくは灌水用です。化学薬品、海水および高温水については使用できません。
- やけど、火災の恐れがありますので、強酸性の薬品・塗料・シンナー・ガソリン・灯油・ベンジン等は絶対に使用しないでください。
- 調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- 誤使用、誤飲の危険がありますので、農薬は絶対に別の容器に移し替えないでください。
- 農薬の空容器は、散布液調合時に必ずよく洗い薬品メーカーの指示に従って、その都度正しく処分してください。
- 農薬は必ず専用の保管箱に鍵をかけて保管し、絶対に食品や食器とは一緒に保管しないでください。

作業中

警告

- 農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。
- 運転中および停止直後のエンジンはマフラ等が高温になっています。やけどをする恐れがありますので不用意に触れないでください。
- ハウス内での使用は人体に悪影響を及ぼす恐れがありますので、よく換気してください。

注意

- 水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- 作業中、作業後にめまい、頭痛を生じまたは気分が少しでも悪くなった場合は直ちに医師の診察を受けてください。
- 作業中に噴口部を清掃または交換する時は、残圧によって顔面等に薬液がかかることを防止するために、必ず調圧ダイヤルを『始動』位置に戻してからエンジンを停止させた後、噴口部のボールコックを閉じた状態で、ボールコックの噴口側の接続部から噴口を取り外して行ってください。
- ボールコックを開いたままで圧力を調整した場合、ボールコックを閉じると圧力が急上昇することがあり危険です。圧力の調整は、必ずボールコックを閉じて行ってください。
- 余水のない運転は危険です。吸水量の10～20%が余水としてタンクに戻るようになってください。
- ホース類はエンジン的高温部（マフラ等）に触れないようにして、無理な曲げ、ねじれ、引張り、折れ等がないように使用してください。
- ホースの温度は40℃以下で使用してください。ホース温度が40℃以上になりますと、耐圧性能が低下します。

作業後と保管

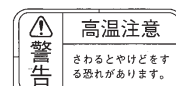
注意

- エンジンを止めてもポンプ～ホース内に圧力が残っていることがあります。この状態で接続部を取り外すと薬液が噴き出す恐れがあります。接続部を外す前に周囲の状況を確認し、噴口部を吐出状態にし、ポンプ～ホース内の残圧を抜いてください。
- 作業後は手足はもちろん、全身を石鹸でよく洗うとともに目の水洗いとうがいをしてください。また、作業期間中は衣服を毎日取り替えてください。
- 前回使用した薬液がタンク、ポンプ、ホース等の内部に残っていると薬害を起こすおそれがあります。特に除草剤散布に使用した後、一般防除作業に使用する場合は、残っている薬液を十分に洗い流してください。
- 余った薬液及び機械の洗浄水は、河川、水源池、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- 使用後は充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

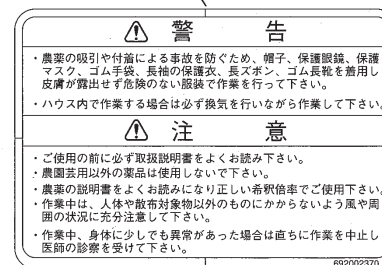
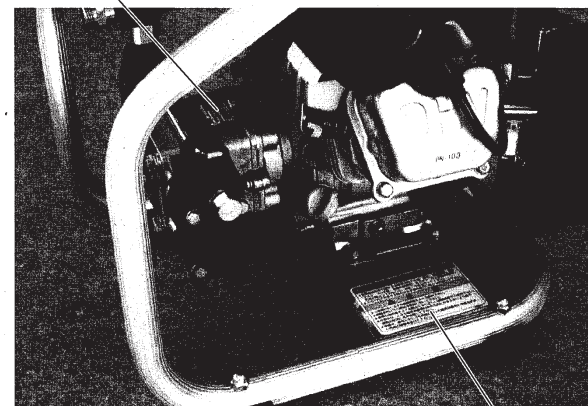
☆ 警告ラベルとその取り扱い

ラベルのメンテナンス

- (1) 警告ラベルは、いつもきれいにしきずつけないようにしてください。
- (2) 警告ラベルが汚損したり、はがれた場合は、お買い上げの販売店に注文し新しいラベルに貼り替えてください。
- (3) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを完全に拭き取り、乾いた面にして元の位置に貼ってください。



品番 692004060



品番 692002370

※エンジンのラベルについてはエンジンの取扱説明書を参照してください。

☆ サービスと保証について

ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買い上げいただいた販売店・JA・弊社営業所等にお気軽にご相談ください。その際、型式名と製造番号を併せてご連絡ください。

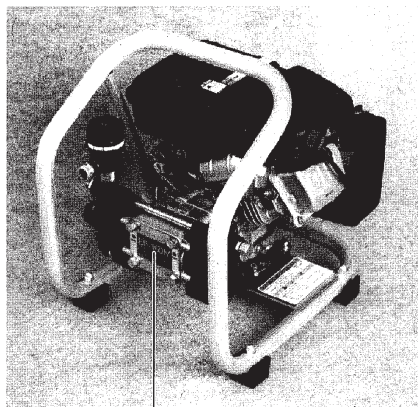
製品本体に表示した「型式名と製造番号」などの所在箇所は下図の通りです。

保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。



・機械の改造は危険です。改造しないでください。改造した場合や、取扱説明書に述べられた正しい使用目的、使用方法と異なる場合は、メーカー保証の対象外となります。



型式名



製造番号 6桁の番号になっています。

No ○○○○○○

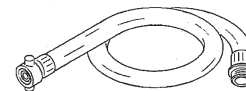
☆ 動力噴霧機仕様

EP-160M3			
ポンプ形式	水平対向ピストン式	エンジン機種	三菱GM82空冷4サイクルOHV
大きさ(長×幅×高)(mm)	400×330×435	総排気量(cc)	80
質量(kg)	16.5	連続定格出力(kw/rpm)	1.3/3600(1.8ps/3600rpm)
ピストン(直径×行程)(mm)	25×9	最高出力(kw/rpm)	1.8/4000(2.4ps/4000rpm)
吸水口	G1/2	使用潤滑油	エンジンオイル SD級以上
吐出口	G1/4×2ヶ所	潤滑油量(ℓ)	0.4
余水口	G1/2	使用燃料	自動車用ガソリン(無鉛)
最高圧力(MPa)	2.9(30kgf/cm ²)	燃料タンク容量(ℓ)	1.5
回転数(rpm)	1800~2000	点火プラグ	NGK: BP6HS(相当品)
排液量(ℓ/分)	最大 16	始動方式	ミラクルスタート式(蓄力式)

☆ 梱包部品一覧

梱包開封後、運送中の本機損傷の有無および付属品・予備品について点検してください。もし、欠品または破損がありましたら、製品名・型式・製造番号をお買い上げの販売店にお知らせください。

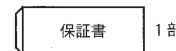
動噴付属品



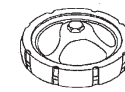
吸水ホース(金具付き): 1本



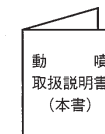
余水ホース(金具付き): 1本



保証書 1部

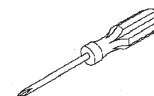


吸水ストレーナ: 1個

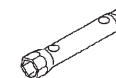


動噴取扱説明書(本書) 1部

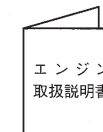
エンジン付属品



ドライバ: 1個



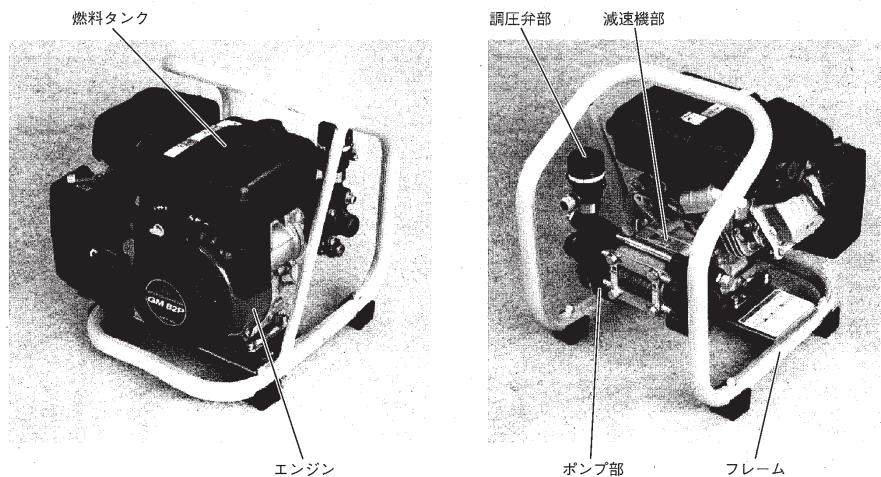
プラグレンチ: 1個



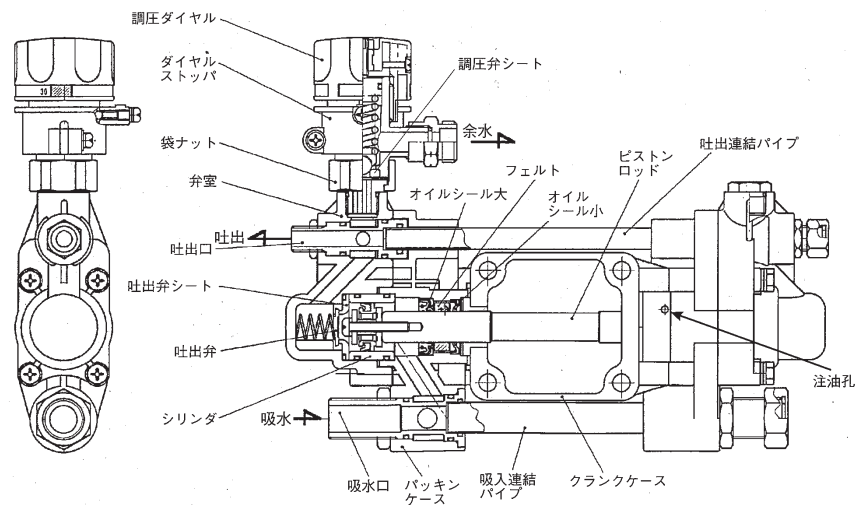
エンジン取扱説明書 1部

☆ 各部の名称

重要 ・本文中のエンジン各部の名称はエンジンの取扱説明書を参照してください。



全 体 写 真



ポ ン プ 部

☆ 運転方法

1 運転前の準備

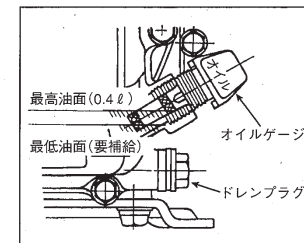
1-1 エンジンオイルの注入、点検、補給

工場出荷時にはオイルは入っていません。

・最初にオイルゲージを抜いてエンジンオイルを注入してください。

・オイルの量は約0.4ℓです。

・毎運転前にオイルゲージを抜いてエンジンオイルの量と汚れ具合を点検してください。



重要

- ・オイルの点検は水平な場所で行ってください。
- ・オイルゲージの上のきざみ線より少ないときは、必ず補給してください。(オイルゲージはねじ込まないでオイル量を点検してください。)
- ・オイルの交換時間、交換方法、グレードはエンジンの取扱説明書に従ってください。

1-2 燃料の補給

・燃料は自動車用普通ガソリン（無鉛）を使用してください。

・燃料タンク容量は1.5ℓです。

・燃料タンクに注入するときは、タンク上面のゲージがFになったら注入を止めて、あふれさせないようにしてください。

・火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の事項を必ず守ってください。

危険

- ・ガソリンはエンジンを止めた状態で補給してください。
- ・ガソリン補給時は火気に充分注意してください
- ・高温部にガソリンがかからないように補給してください。
- ・燃料タンクの給油口一杯までガソリンを入れしないでください。
- ・ガソリンがこぼれたらきれいに拭き取ってください。
- ・ガソリン補給は燃料コックを閉じて行ってください。

1-3 ポンプへの注油

・運転前にポンプのクランクケース両側の注油孔に5～6滴程度の量のエンジンオイルを注油してください。(一日に一度で充分です。)

1-4 各ホース類・コック・噴口の接続

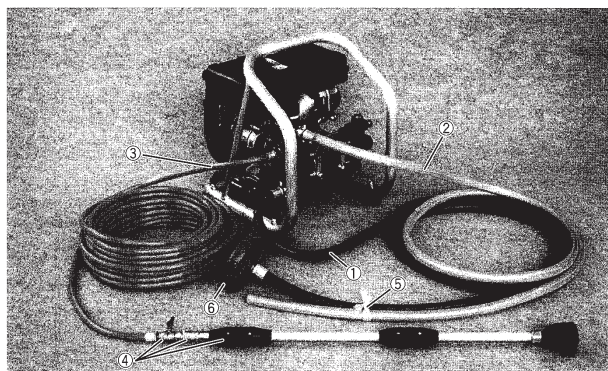
◎通常の作業では下記の部品(別売)が必要です。販売店にご相談の上、別途お買い求めください。

1. 農業用噴霧ホース (接続ネジG1/4、常用使用圧3.4MPa {35kgf/cm²} 以上の物)
圃場や作業目的に合った長さのホースを選定してください。
2. ボールコック (G1/4)
3. より戻し (G1/4)
4. 噴口 (作業目的に合わせて選定してください。)
5. 薬液タンク (作業目的に合った容量のタンクを選定してください。)

重要 ●本機の性能に適応した噴口を使用してください。

・適応噴口性能

圧力2.0MPa (20kgf/cm²) の時に12ℓ/分以下の吐出性能を有する噴口を使用してください。
(17ページ: ポンプ性能表参照)



写真は『ウルトラワイド噴口700型』を使用した例です。

- ① 吸水ホースを吸水口に接続します。(ホースの傷、パッキンの脱落破損がないか確認します。)
- ② 余水ホースを調圧弁の余水口に接続します。
- ③ 噴霧ホースを吐出口に接続します。(ホースの傷、パッキンの脱落破損がないか確認します。)
- ④ 噴霧ホースにより戻し、ボールコック、噴口を接続します。
噴口のネジがSW13.8の場合、異径金具SW13.8×G1/4 (別売) を取り付けてください。
- ⑤ 余水ホースと吸水ホースをひも等でしっかりと束ねます。
- ⑥ 吸水ストレーナを吸水ホースに接続します。
(ストレーナにゴミが詰まっていないか点検します。)
- ⑦ 吸水ホース、余水ホースを薬液タンクの中に静かに入れます。

- 燃料がこぼれたり、本機が転倒する恐れがありますので、本機は安定した水平な場所で運転してください。
- 余水ホースは、薬液タンクから飛び出さないように、吸水ホースに紐や針金でしっかり結び固定してください。運転中に調圧弁や、コックの操作で余水ホースが勢いよく飛び出し薬液をかぶる危険があります。

注意

- 燃料、オイル漏れのないこと、接続部のパッキンに脱落がないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常がないことを確認してください。異常があった場合は整備をした後ご使用ください。
- 噴霧ホース、噴口には高圧がかかります。接続は、工具を使ってしっかりと締め作業中にゆるまないように固定してください。
- 接続部のゆるみ防止と安全のため、噴口と噴霧ホースの間には必ずボールコックとより戻しを接続してください。

2 運転 (始動)

注意

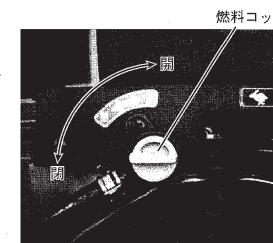
- 突然の噴霧を防止するため、エンジン始動時は必ず噴口のボールコックが閉じていることを確認し、調圧ダイヤルが『始動』位置になっていることを確認した上で始動してください。
- また、噴口にストップ機能があるものは、ストップの状態にしてください。

2-1 エンジンの始動

- ① 燃料コックを開きます。
(右の写真は閉の状態を示しています。)

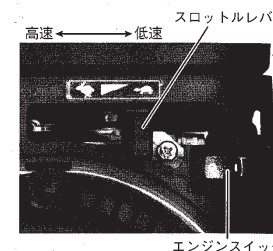
注意

- 運転するとき以外、常に燃料コックは閉じておいてください。



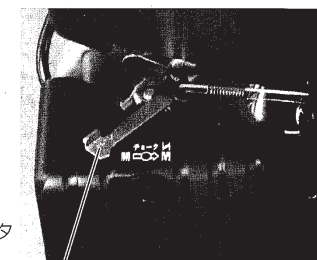
- ② エンジンスイッチを運転側にします。エンジンを停止するときは停止の方にします。

○
停止 ⇄ 運転
(OFF) (ON)



- ③ スロットルレバーを高速の方に少し開きます。

- ④ チョークレバーを閉じます。



- ⑤ リコイルスタータグリップを引っ張ります。
蓄力式リコイル型ですので勢いよくリコイルスタータを引く必要はありません

重要

- ロープは一杯に引ききらないでください。引いたロープはその位置から手放さないで静かに元に戻してください。

- ⑥ エンジンが始動したらチョークレバーを開きます。
・ 始動後チョークレバーはエンジンの調子を見ながら徐々に開いてゆきます。最後には必ず全開にしてください。
・ 寒い時、またはエンジンの冷えている時、急にチョークレバーを開くとエンジンが停止することがありますのでご注意ください。

2-2 ポンプの吸水と暖気運転

- ① 始動後、エンジンのスロットルレバーを中速にし、ポンプを吸水させます。余水ホースから薬液が出るのを確かめてください。
- 余水が出ない（＝吸水しない）ときは、調圧ダイヤルが『始動』位置になっていることを確認して下さい。更に、吸水しない場合は噴口及びボールコックを開いて噴霧状態にすると吸水します。吸い込み後は、噴口及びボールコックをすぐに閉じてください。

補 足

- ・ 噴口及びボールコックを全閉にして、調圧弁が高压の状態では吸水ホースやポンプ内の空気の逃げ場がないので薬液を吸入しない場合があります。
- ② スロットルレバーを低速に戻し、約3～5分間暖気運転してください。

3 作業開始

3-1 調圧弁の設定

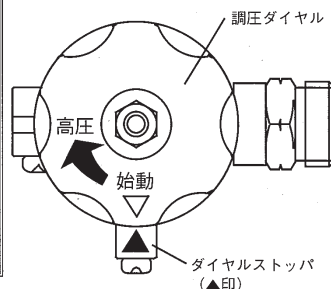
- ① スロットルレバーを高速側一杯に動かし、エンジンの回転を上げます。
- ② 調圧ダイヤルの目盛りをダイヤルストップの▲印にあわせて希望の圧力に設定します。

重要

- 調圧ダイヤルの目盛りは噴口から吐出しないときの圧力（締め切り圧）を示します。実際に、噴霧させると噴霧圧力はその時のダイヤルの指示圧力より低下します。また、その低下の度合いは使用される噴口によって大きく変化します。（17ページ：ポンプ性能表参照）

注意

- 圧力の調整操作をする時は、本機が吸水していること（余水ホースから薬液が出ること）を確認してください。
- 吸水していない状態で圧力を上げようと調圧弁の調圧ダイヤルを高压側にまわしても圧力は上昇しません。その状態で本機が吸水を始めた場合、圧力が急激に上昇することがあり危険です。
- 調圧ダイヤルの上面のネジは絶対に回さないでください。圧力設定が変わり、危険です。



3-2 作業

- ① 噴霧ホース先端のボールコック、及び噴口を徐々に開いて散布作業に入ります。

注意

- ・ ホースに無理な曲げ、ねじり、引張り、及び折れ等のないように使用してください。
- ・ ホースの温度は40℃以下で使用してください。ホース温度が40℃以上になりますと、耐圧性能が低下します。
- ・ 噴霧を始めるとき、コックを急に開けると圧力で噴口が振られることがありますので、必ず徐々に開けてください。
- ・ 余水の出ない状態での使用は危険です。
- ・ ポンプ吸い込み量の10～20%が余水として薬液タンクに戻るようにしてください。

4 運転中の注意

- (1) 薬液を補給する場合や吸水ホースの移動などで空気を吸い込むことがあります。この場合は必ず調圧ダイヤルを『始動』位置に戻して再度吸水させてください。調圧ダイヤルを戻さないで、吸入した空気が抜けず吸水しないことがあります。
- (2)

重要

- 吸水しない状態（空運転）で運転を続けると、パッキン類が損傷しますから空運転は絶対しないでください。

警告



- 薬品の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。
- 運転中および停止直後のエンジンはマフラ等が高温になっています。やけどをする恐れがありますので不用意に触れないでください。
- エンジンは有毒ガスを発散します。ハウス等の屋内での使用時は十分に換気を行ってください。ハウス内での運転は通用口を開ける、ビニールをめくる等、外気が充分入るようにして行ってください。

注意

- 水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や必要以外の作物、動植物にかからないよう風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- 作業中、作業後にめまい、頭痛を生じまたは気分が少しでも悪くなった場合は直ちに医師の診察を受けてください。
- 作業中に噴口部を清掃または交換する時は、残圧によって顔面等に薬液がかかることを防止するために、必ず調圧ダイヤルを『始動』位置に戻してからエンジンを停止させた後、噴口部のボールコックを閉じた状態で、ボールコックの噴口側の接続部から噴口を取り外して行ってください。

- (3) 霧が出てても圧力が弱い時は、症状と原因を調べて対策をします。

- A. 【症状】余水ホースから余水が出すぎる。
【原因】調圧弁の弁シートが悪い。
【対策】裏返して使用または新品と交換する。（お買い上げの販売店にご相談ください。）
- B. 【症状】余水ホースから余水が出ないか、少ない。
【原因】回転数が低い
【対策】エンジンのスロットルレバーを高速側いっぱい動かす。
- C. 【症状】Bと同じ
【原因】噴口の穴径が摩耗して大きくなったか、噴口の数を増やしたため本機の吸水量と噴霧量の釣り合いがとれない。
吸水量＜噴霧量
【対策】新しい噴板に交換する。または、噴口の数減らすか、小さな穴径の噴口に交換する。

5 作業終了

5-1 エンジンの停止

- ① 噴口のボールコックを閉じます。
- ② 調圧ダイヤルを『始動』位置に戻した後、スロットルレバーを低速位置にします。
- ③ 吸水ストレーナを薬液タンクから引き上げ吸水ホース・ポンプ・余水ホース内の薬液を排出します。
- ④ エンジンスイッチを停止にしてエンジンを停止します。
- ⑤ 燃料コックを閉じます。

重要

- 空運転を防止するため空気を吐き出したら直ちにエンジンを停止してください。
- 吸水ストレーナを薬液タンクに入れたまま停止しないでください。

5-2 ポンプ・ホースの洗浄及び排水

- ① 再度、通常の運転方法で清水を吸水させ、圧力を上げて噴口、噴霧ホース、本機内部を充分洗浄してください。(約3分間)
- ② ポンプから全てのホースを外し、調圧ダイヤルを『始動』位置の状態、エンジンの回転を最大にして5秒間程度空運転し本機内の水を排出します。
- ③ エンジンを停止します。(10秒間以上の空運転は行わないこと。)
- ④ 燃料コックを閉じます。
- ⑤ 噴口、噴霧ホース、余水ホース、吸水ホースを外し噴口及び各ホースの残水を完全に排水してください。

注意

- エンジンを止めてもポンプ～ホース内に圧力が残っていることがあります。この状態で接続部を取り外すと薬液が噴き出す恐れがあります。接続部を外す前に周囲の状況を確認し、噴口部を吐出状態にして、ポンプ～ホース内の残圧を抜いてください。
- 前回使用した薬液がタンク、ポンプ、ホース等の内部に残っていると薬害を起こす恐れがあります。特に除草剤散布に使用した後、一般防除作業に使用する場合は、残っている薬液を十分に洗い流してください。
- 余った薬液及び機械の洗浄液は、河川、水源池、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- 作業後は手足はもちろん、全身を石鹸でよく洗うとともに目の水洗いとうがいをしてください。また、作業期間中は衣服を毎日取り替えてください。

重要

- 冬期間は、洗浄水が残っていると凍結し本機を破損することがあります。
- 以上の操作は、機械保存および故障防止上大切なことですので必ず手順通り実行してください。

6 本機の手入れと保管

注意

- (1) 本機にほこりや油、薬液等の汚れが残らぬよう布などでよく拭き、よく乾燥させた後カバー等をかけ、屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。
- (2) 各部のボルト、ナット、ビス類の緩みがないかを点検し、必要があれば増し締めしてください。
- (3) 吸水ホースの接続部のパッキンの脱落やホースの亀裂、摩耗、破損がないか点検してください。異常があれば修理、または交換してください。また、吸水ストレーナの点検掃除を行ってください。

重要

- (4) ポンプ部のクランクケース内(8ページ参照)のグリスは、100時間毎に交換してください。その際、クランクケース内のボールベアリングのボール部分にはあたらしいグリスを確実に充填し古いグリスと入れ替わるようにしてください。
(推奨使用グリス：シェル アルバニアEP2 充填量50～60グラム)

重要

- エンジンの手入れ、保管方法はエンジンの取扱説明書をお読みください。ただし、ポンプを吸水させない空運転で、エンジン気化器内のガソリンを抜くことは絶対にしないでください。ポンプのパッキンを損傷します。

☆ 点 検 表

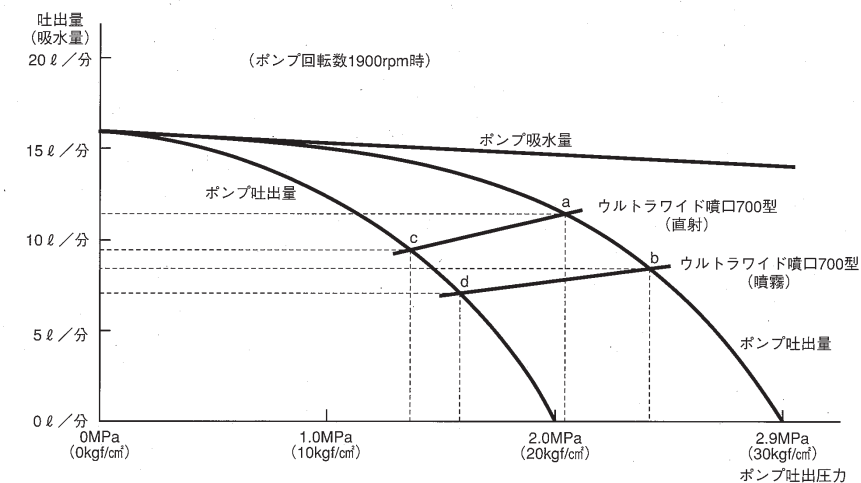
点検や整備をおこたると故障や事故の原因になることがあります。常に良好な状態を保つため次の点検表に従って定期的に保守点検を励行しましょう。

点 検 内 容			処 置	点検時期	
				始業	月例
(1) 吸水性能	・吸水ホースのバックキンに異常はないか	吸水ホース継手のバックキンの脱落、変形	交 換		○
	・吸水ストレーナに異常はないか	目詰まり、破れ	清 掃 交 換	○	
	・吸水ホースが潰れたり、折れたりしていないか	つぶれ、折れ	交 換	○	
	・脈動が激しくないか	ポンプ内ゴミ詰まり 調圧弁不調	※	○	
(2) 圧力の調整機能	・霧が弱くないか	ポンプ内ゴミ詰まり 調圧弁不調	※	○	
(3) 水漏れ	・ポンプ部から水漏れはないか（注油口から水漏れ）	・ピストンバックキン及びオイルシールの摩耗 ・Oリングの摩耗	※	○	
(4) 噴霧ホース	・噴霧ホースに異常はないか	・亀裂、摩耗、破損 ・バックキンの脱落、変形	交 換	○	
(5) 噴口、ボールコック	・ストップ機能は良好か		交 換 調 整	○	
	・水漏れはないか		交 換	○	
	・噴口の穴は摩耗していないか		交 換		○

※印の処置に関しては特殊な工具と高度な技術を必要としますのでお買い上げの販売店にご相談ください。

☆ ポンプ性能表

注) 下記性能表中に記載の噴口の性能曲線は『ウルトラワイド噴口700型』の例です。



性能表の見方

・吐出量の曲線は調圧ダイヤルを2.9MPa (30kgf/cm²) と2.0MPa (20kgf/cm²) に合わせた時の吐出性能曲線です。ポンプの吐出量の曲線と噴口の吐出量の曲線の交点の所の性能で噴霧できます。

- ウルトラワイド噴口700型を使用し、調圧ダイヤルを2.9MPa (30kgf/cm²) に合わせたとき
 直射の場合：約2.0MPa (20kgf/cm²) で約12ℓ/分の吐出量が得られます。(a点)
 噴霧の場合：約2.3MPa (23kgf/cm²) で約9ℓ/分の吐出量が得られます。(b点)
- ウルトラワイド噴口700型を使用し、調圧ダイヤルを2.0MPa (20kgf/cm²) に合わせたとき
 直射の場合：約1.3MPa (13kgf/cm²) で約10ℓ/分の吐出量が得られます。(c点)
 噴霧の場合：約1.5MPa (15kgf/cm²) で約7ℓ/分の吐出量が得られます。(d点)